

印象に残る教師像

——大学生への半構造化面接を通して——

二宮 克美*¹・山本 ちか*²・杉山 佳菜子*³

キーワード：教師像、理想とする先生、嫌いなタイプの先生、大学生、半構造化面接

小学校・中学校・高等学校でもっとも印象に残っている先生について、大学生に個別に面接を実施し自由に話をしてもらった。また、理想とする先生像、嫌いな先生像も語ってもらった。面接協力者100名の内訳は、大学1・2年生男女で教職の志望有無、大学3・4年生男女で教職志望の有無、短期大学生女子で教職志望の有無の計10群（各10名）であった。主たる結果として、印象に残っている先生は、ポジティブなイメージが多く、中学校や高等学校の先生があげられることが多かった。理想とするタイプの先生は、親しみやすく、授業が上手で、公平であり、めりはりのある先生であった。嫌いなタイプの先生は、自分の価値観を押し付け、不平等で、感情的な先生であった。

問題および目的

子どもたちが親以外に毎日接する大人としてあげられるのは、学校の教師である。子どもと教師との関係の良し悪しが、教科学習や課外教育活動など学校生活に及ぼす影響は大きい。小学校の時のような学級担任制で、一人の教師の役割が大きい時期もある。中学生や高校生の時は教科担任制であり、毎時間性格の異なる教師が教室にあらわれる。さらにはクラブ活動も活発になり、教科以外での課外教育活動で教師から影響を受ける場面が多くある。子どもたちは、小学校・中学校・高等学校の学校段階でどのような教師に強い印象を持っているのだろうか。

豊田（1994）は、女子大学生を対象に、印象に残る教師を回想させている。その結果、好きな教師を回想することが多かった。因子分析の結果、次の5因子を見出している。「信

*¹ にのみや かつみ 総合政策学部

*² やまもと ちか 本学非常勤講師（名古屋文理大学短期大学部）

*³ すぎやま かなこ 本学非常勤講師（鈴鹿大学こども教育学部）

頼感」、「個人的な関わり」、「快活さ」、「厳しい指導」、「授業のうまさ」の5因子である。

さらに豊田(1996)は、男女大学生ならびに看護学校生を対象に、好きだった教師、嫌いだった教師の特徴を自由記述で求めた。「小学校時代では同性の教師を好む傾向が認められたが、中学・高校時代では男女ともに男性教師を好きな教師として回想する者が多かったこと、回想する時代が現代に近づくにつれて、授業の上手・下手が教師の好き-嫌いを規定する特徴として重視されること」などを明らかにしている。

またNHK「少年少女プロジェクト」世論調査(2000年2月18日放送:尾木(2000)より引用)では、中高校生796名に理想の先生像(好きな先生の条件)をたずねている。その結果、「気楽に話せる」(61%)、「授業がわかりやすい」(50%)、「ユーモアがある」(41%)、「どの生徒にも公平に接する」(39%)、「生徒の話を真剣に聞いてくれる」(32%)であった。

いずれも20年以上前の研究結果であり、こうした研究で明らかになっている教師像は、現在でも該当するのであろうか。

野口(2016)は、大学1・2年生33名に、「小学校から大学まで、今の自分に影響を与えていると思う学校経験」について、自由記述を求めた。教師の記述の内容について分析した結果、「授業・全体指導場面」と「個人指導場面」の2カテゴリーがあることを明らかにした。比較的多く述べられていたのが、具体的な「授業方法や教師としての力量」であった。また、中学・高校での進路指導などの個人指導場面で、「じっくり話す機会」で、「悩み困った時に相談・支援」が与えられたことが大きく影響していることを明らかにしている。

近年、文部科学省(2019)は、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策」についての答申で、教員の働き方改革を本格的に議論するようになった。

内田・上地・加藤・野村・太田(2018)では、教員の労働時間が1日当たり12~13時間という長時間であることを明らかにしている。教師の働き方改革の問題点として部活動の負担について、調査を実施し、教師の意識と実態から考察している。

内田は、上記の調査報告の「はじめに」(pp. 2-5)で、次のように書いている。「『子どものため』だからと、夜遅くまで授業の準備をして、土日には部活動の指導に精を出す。休みなく働きつづけて、それが子どもの目の輝きや笑顔となって返ってきたとき、『やってよかった……』と、教師冥利なるものを実感する。……自己犠牲を美化する時代は、も

う終わりにしたい。」

教師のあり方を検討する動きが始まっている。ここで今一度、教師が子どもたちにどのような印象を与えているのかを明らかにしたい。先行研究の方法ではなく、今回はじっくり一人ひとり個別に面接をすることで、教師像を明らかにするのが本研究の主たる目的である。

方 法

1. 面接協力者

大学1・2年生男女で教職志望の有無、大学3・4年生男女で教職志望の有無、短期大学生女子で教職志望の有無の計10群（各10名）、合計100名。大学生は、主として愛知学院大学や椙山女学園大学に在籍する学生、短期大学生は、主として名古屋文理大学短期大学に在籍する学生であった。

2. 説明と同意

「教師のイメージインタビューへの協力をお願い」という文面にて、研究の内容の説明を行い、すべての面接協力者に対して研究同意書に自署を求めた。

『このインタビューは、教師のイメージについてお聞きするものです。大学生および短大生の皆さんが印象に残っている先生のイメージを調べることが目的です。

このインタビューは強制ではありません。あくまでもご協力をお願いするものです。インタビューに回答するかどうかは、皆さんが自由に決めることができます。また途中で中止することもできます。

お答えいただいた内容は、全体的に集計されます。個人名を表に出すことはしませんので、個人的な情報についてご迷惑をおかけすることはありません。

集計した結果は、紀要や日本教育心理学会等で発表予定です。

調査の内容や結果について質問がある場合は、インタビュー担当者（二宮・山本・杉山）まで問い合わせてください。

お手数をおかけしますが、ご協力くださいますようお願いいたします。』

===== キ リ ト リ =====

研究同意書

研究責任者： 二宮 克美 殿

研究課題名： 印象に残る教師像についての研究

□研究の主旨、研究の目的と方法、研究協力を自分の意思で行うことおよび協力を撤回する自由があること、個人情報の取扱い、結果の公表、問合せ先について、説明を受け充分理解しましたので、研究に協力することに同意します。

平成30年 月 日

本人氏名(自署) _____

なお、本研究の実施に際し、愛知学院大学総合政策学会研究倫理委員会において倫理審査を受け、許可を得た。

3. 面接内容

I. 小学校・中学校・高等学校で、いろいろな先生に出会われたと思いますが、その中でももっとも印象に残っている先生について、お話しをうかがいます。(どうぞ自由にお話しください。)

【確認すべき事項】(既に自由回答で分かった事項には、○をつけておく)

1. あなたがその先生に出会ったのはいつですか。(小学校・中学校・高等学校)
(1・2・3・4・5・6年)
2. 男性ですか。女性ですか。(男性 ・ 女性)
3. その先生のおおよその年齢は。(歳)
4. ポジティブなイメージか、ネガティブなイメージか。(ポジティブ・ネガティブ)
5. 何の先生ですか。 教科 (_____)
クラブ (_____)
6. クラスの担任の先生でしたか。(はい ・ いいえ)
7. 今のあなたにその先生が与えている影響はありますか。
(はい ・ いいえ)

II. あなたが理想とする先生は、どんなタイプの先生ですか。

(大学の先生の話であれば、小中高の先生では、と問い直す。)

III. あなたが嫌いな先生は、どんなタイプの先生ですか。

(もし大学の先生の話であれば、小中高の先生では、と問い直す。)

4. 面接時期

2018年(平成30年)10月下旬から2019年(平成31年)1月上旬。

5. 面接時間

1人概ね15分程度。面接協力者の話のペースに合わせ、多少の時間のゆとりを持たせた。

結果と考察

1. 印象に残った先生像

(1) 教師の性別：男性=69名、女性=31名。

印象に残った教師は男性であるという結果であり、豊田（1996）の結果と同様であった。面接協力者の性別と印象に残った教師の性別で、有意差がみられた ($\chi^2=5.68$, $p<.05$)。男子は男性教師を、女子は女性教師を印象に残った教師としてあげることが多かった。

(2) 教師と出会った時期：小学校=16人、中学校42人（中1=26人、中2=10人、中3=6人）、高校42人（高1=29人、高2=6人、高3=7人）。

中学と高校が同数で、4割強である。中1や高1など学校移行の時期に、印象に残る教師に出会ったという回答が多いことがわかる。

(3) 教師の年齢：20歳代=25人、30歳代=22人、40歳代=31人、50歳代=22人。

印象に残る教師の年齢による差はなかった (*n.s.*)。各年代ほぼ同じ人数があげられており、教師の年齢について特に目立った傾向はみられない。

(4) イメージ：ポジティブ=92人、ネガティブ=8人。

印象に残る教師は、圧倒的にポジティブイメージが多い。なお、ネガティブ・イメージ8人の内訳は、女子5人、男子3人であった。教職志望なし7人、志望あり1人であった。

(5) 担任かどうか：はい=61人、いいえ=39人。

面接協力者の性別と印象に残った教師が担任か否かで、有意差がみられた ($\chi^2=7.17$, $p<.01$)。女子の方が、担任の先生を印象に残る教師としてあげていた。

(6) 印象に残る先生の教科・クラブ：教科=78人、クラブ（課外教育）=32人（複数回答あり）。

面接協力者の性別、教職志望の有無による差はみられなかった (*n.s.*)。教科の先生を印象に残る教師としてあげる割合が高いと言える。

(7) その先生が与えている影響：あり=85人、なし=14人、不明=1人。

教職志望の有無で、影響の有無に違いがみられた ($\chi^2=6.95$, $p<.05$)。教職志望者の学

生は、「今の自分にその先生が与えている影響がある」という回答であった。

(8) 代表的な語り

100人の面接記録が得られ、それぞれに貴重な語りであった。すべてを紹介するスペースはないが、代表的な事例を下記に紹介しておく。

■教職志望に影響があった代表的な事例

〈事例1：大学4年男子・教職志望あり〉

- ・社会を教えてくれた中学校2・3年の担任の女性の先生。人間的なことの成長も促してくれた。その先生の影響で、社会の教員を目指そうとした。社会が暗記だという黒板に向かってしゃべっていた先生がいたが、その先生は社会を時系列的に分かりやすく教えてくれた。

〈事例2：大学1年男子・教職志望あり〉

- ・中学校2年生の時の社会の先生。教職を目指すきっかけになった。目指す教師像であり、あこがれの存在。授業が丁寧で板書も分かりやすい。質問に行くと分かりやすく教えてくれた。陸上部の顧問でもあった。指導も熱があって、厳しいことも言ってくれた。成長につながる厳しさだった。文武両道で成長させてくれた先生だった。

〈事例3：大学4年女子・教職志望あり〉

- ・小5の担任で、体育の先生。すごくいい先生。どうでもよいことでも困ったことでも何でも聞いてくれる。誰に対しても話を聞いてくれる。全員に分け隔てなく、話していた。その先生が、自分に「教えることにむいている」と教えてくれた。

(その先生が今のあなたに与えている影響はありますか)

つらいことがあっても、何事も前向きにとらえる先生だったので、自分も前向きになれる。

■ネガティブ・イメージ

〈事例4：大学2年女子・教職志望なし〉

- ・高校の部活の顧問の先生。結構厳しい先生で、怒ると怖い。先生の望むことを言わないと機嫌が悪くなる。

■クラブの先生

〈事例5：短大1年生女子・教職志望なし〉

- ・高校の部活（バスケット部）の先生。厳しいけれど芯がしっかりしている。生活場面でも、常識とかいろいろと教えてもらった。部活では厳しかった。普通に話しているときに

は優しい。自分たちのことを思ってくれていた。この先生のおかげで全部変わった。

〈事例6：大学2年生男子・教職志望なし〉

・中学校の部活（野球部）の先生。すごく厳しかったけど、筋が通っていて、ついて行こうと思える先生だった。

（その先生が今のあなたに与えている影響はありますか）

考え方や、礼儀、挨拶はしっかり。

2. 理想とするタイプの先生

理想とする先生は、どんなタイプの先生かたずねた結果、合計192の回答が得られた。1人当たりの内容数は1～5であった。これらについて、「教師の性質」、「教授・指導」、「教師の対応」の点から、分類を行った。これらの分類に当てはまらないものは、「その他」とした。

(1) 教師の性質

「教師の性質」に関しては、35の回答が得られた（Table 1）。最も多かったのは、話しやすい、しゃべりやすい、生徒から話しかけられるなど「親しみやすさ」についてであった。次に多かったのは、熱意のある先生、熱い先生など「熱意」に関するもの、楽しい先生や面白い先生といった「楽しさ・面白さ」についての内容であった。その他には、生徒になめられない、威厳のあるといった「威厳」や、引っ張っていけるといった「リーダーシップ」、「優しさ」、「明るい」、「頼りがいがある」、「信頼できる」、「責任感がある」といった性質に関する内容がみられた。

Table 1 「教員の性質」に関する語り

	度数		度数
親しみやすさ	10	頼りがい	2
熱意	6	優しさ	2
楽しさ・面白さ	5	明るい・元気	2
威厳のある	4	信頼できる	1
リーダーシップ	2	責任感	1

(2) 教授・指導

「教授・指導」については、24の回答が得られた（Table 2）。多く語られていたのは、「授業の上手さや内容」についてであった。授業がわかりやすい先生、授業が面白い先生、硬い授業をしない先生、説明だけでなくみんなの意見を聞く先生といった内容が主であっ

た。少数ではあるが、字が丁寧、板書がうまくまとめている、マニュアル通りではない、グループワークがあるといったより具体的な授業方法も語られていた。また、成績が悪い子に手を差し伸べる、わからない人に教えるといった「勉強ができない子どもへの指導」についての内容もみられた。「勉強以外の指導」についての語りもみられ、学校の勉強以外も見てくれる、勉強以外も教えてくれる、経験したことを生徒に伝えることができるといった内容であった。

Table 2 「教授・指導」に関する語り

	度数
授業の上手さ・内容	13
勉強ができない子どもへの指導	3
勉強以外の指導	8

(3) 教師の対応

「教師の対応」については、109の回答が得られた (Table 3)。最も多かったのは、めりはりがつけられる先生、やるところはやるが抜くところは抜く、怒るときと怒らないときのめりほりがある先生、優しさと厳しさのめりほりがある先生、叱るときは叱って褒めるときは褒めてくれる先生、切り替えが早い先生といった「めりほり」についてであった。次いで多かったのは、「寄り添い・親身・気遣い」に関するものであった。具体的には、身近で寄り添ってくれるような先生、丁寧に対応してくれる先生、親身になってくれる先生、話を聞いてくれる先生、認めてくれる先生、否定をしない先生、自分たちのことをちゃんと見てくれる先生、困っていると手を差し伸べてくれる先生といった内容であった。次に多かったのは、誰に対しても平等に接する先生、差別しない先生、誰とでも分け隔てなく接する先生、生徒によって態度を変えない先生、公平な先生といった「平等」に関するものであった。その他には、きちんと叱ってくれる先生、厳しい先生といった「厳しさ・叱る」、真剣に考えてくれる、生徒のことを第一に考えてくれるといった「子どものことを考える」行動、個性と認めてくれる、一人の人間として見てくれるといった「個人の尊重」、子どもと同じ目線に立てる先生、子どもの気持ちが良くわかる先生、生徒と同じ立場に立って話をしてくれる先生といった「子どもの視点に立つ」行動に関する内容が多くみられた。また少数ではあるが、適度な「距離感」、「対話」があること、「自主性の尊重」、「褒める」ことについての内容がみられた。

Table 3 「教師の対応」に関する語り

	度数		度数
めりはり	21	子どもの視点に立つ	7
寄り添い・親身・気遣い	19	子どもとの共行動	6
平等	15	距離感	5
厳しさ・叱る	10	子どもとの対話	4
子どものことを考える	9	自主性の尊重	3
個の尊重	8	褒める	2

(4) その他

上記に分類できなかった「その他」については、24の回答が得られ、初心を忘れない先生、周りを見られる先生、かっこいい先生、社会人としての対応ができる先生、子どもたちを好きになれる先生、業務をちゃんとこなしている先生といった内容であった。

3. 嫌いなタイプの先生

「あなたが嫌いな先生は、どんなタイプの先生ですか」の質問には、163の回答があった。これらを類似の回答でまとめ、7つのカテゴリーに分類した (Table 4)。

(1) 決めつけ・押し付け

回答が多かったのは「決めつけ・押し付け」のカテゴリーで、33あった。なかでも「自分のものさしで、生徒を切り分ける先生」「決めつけてくるしゃべり方をする先生」などの「決めつける」が最も多く、最も学生から嫌われるタイプと言える。「自分が正しいと思いついて先生」「自分がなんでも正しいかのように生徒に言う先生」の「自分が正しい」という態度の先生や「自分の言葉があたかも正義のように、生徒に向かって振りかざすような先生」「“やってやってるんだぞ” という雰囲気先生」の「高圧的」な態度の先生も嫌われるタイプと言える。

(2) 友好的ではない

「友好的ではない」のカテゴリーのものが31と多かった。「自分の仕事をしているだけみたいな人」「淡々とこなすマニュアル通りの先生」などの「淡々としている」タイプの先生や「怖い」先生は嫌われるタイプだということがわかる。また、「ツンとしている。機嫌悪そうで、話しかけにくい」といった「話しかけにくい」先生や、「お高くとまっている先生。先生だからという感じの先生」「一線をひいてくる先生」という「壁がある」と感じさせる先生も嫌われやすいタイプと言える。先生と生徒という明確な上下関係を示

すなど、一人の人間として対等に接してくれない先生は嫌われるタイプと言える。

Table 4 嫌いな先生のタイプに関する語り

決めつけ・押し付け	度数	友好的ではない	度数	平等でない	度数	生徒に関心がない	度数
決めつける	7	淡々としている	5	ひいき	7	意見を聞かない	5
高圧的	6	怖い	5	不平等	5	生徒を見ていない	5
自分が正しい	5	話しかけにくい	4	差別的	5	関心がない	3
自己中心的	3	無愛想	3	好き嫌いがある	4	理解してくれない	2
意見を聞かない	3	楽しくない	3			意見を理解しない	2
押し付ける	3	壁がある	3			いじめの黙認	2
否定的	2	関わってくれない	3			一緒に考えてくれ ない	1
自分のやり方	1	嫌味っぽい	2				
理不尽	1	自慢話ばかり	2				
馬鹿にする	1	のりが悪い	1				
頭が固い	1						
合計	33	合計	31	合計	21	合計	20
感情的になる	度数	過度に友好的	度数	授業のスタイル	度数	その他	度数
すぐに怒る	9	なめられる	3	進め方	6	その他	9
感情的	8	しつこい	3	説明の仕方	5		
どなる	2	干渉的	3	板書の仕方	2		
短気	1	距離が近すぎる	2	注意の仕方	1		
		ゆるい	2	楽しくない	1		
		こびをうる	1				
合計	20	合計	14	合計	15		9

(3) 平等ではない

「ひいき」や「不平等」、「差別的」な言動などの「平等ではない」ことに関する回答が21あった。この回答には具体的な例が多く、嫌いなタイプというよりは嫌いな先生（個人）のエピソードが語られた。「ひいき」には「えこひいきする先生。中学の部活の先生でいた」「部活で、自分のお気に入りの生徒だけを目にかけている先生」と部活の場面でひいきされていると感じる場面が語られた。「差別的」では「一生懸命委員会の仕事をしたのに、名前すら覚えてくれない先生がいた。覚えているのは目立つ生徒や成績がいい生徒ばかり」「社会の先生で差別されているなと感じて嫌いになった。宿題をきちんとやっていっても、自分だけ叱られた」という回答があった。自分が頑張っているところを認めてもらえなかったという感覚が嫌いな先生のタイプにつながっているようである。

(4) 生徒に関心がない

「(生徒の) 意見を聞かない」「生徒を見ていない」といった「生徒に関心がない」に関

する回答が20あった。「意見を聞かない」は「生徒の言い分を聞かないで、自分の意見だけを強く言う先生」「生徒の話を聞かないで、決めつけて怒る先生」などである。「生徒を見ていない」は「やっているのに“やれ”と言う先生」「テストで悪い点を取った時とかに「がんばれ」と言う先生。根性論を言う先生」などである。その他、「見て見ぬふりをする先生。いじめを受けていた時に、小6の担任がなかったことにしようとしていた」という「いじめの黙認」をする先生もあげられた。

(5) 感情的になる

「すぐに怒る」「感情的」などは「感情的になる」としてまとめた。「生徒の話を聞かずに頭ごなしで怒る先生」「ただただ怒るだけ、ほめることをしない先生」などの「すぐに怒る」が9つあった。また、「自分の機嫌で、理不尽に怒る先生。よくわからないところで怒る先生」「露骨に感情を態度に出す先生」「気分で接してくる先生も嫌」などの「感情的」な先生は8つあった。教師側には理由があっても、生徒に理由が伝わらない感情の出し方をする教員は嫌われるタイプと言える。

(6) 過度に友好的

「友好的ではない」先生が嫌いなタイプだという回答があった一方で、「権力がない」「しつこい」「干渉的」といった「過度に友好的」に分類されたものは14あった。「生徒と友だちみたいに接する先生」といった「距離が近すぎる」先生や、「嫌われたくないから、怒らなさすぎる先生」といった「ゆるい」先生も嫌いなタイプとしてあがっている。先生としての立場と距離をわきまえない、先生としての威厳がない先生は嫌われるタイプと言える。

(7) 授業のスタイル

「進め方」「説明の仕方」「板書の仕方」などの「授業のスタイル」に関することは15あった。「進め方」は「授業が進まない、脱線が多い」「あてられる先生。何回も何回も分からないことを聞く先生」「ただ教える塾の先生みたいな先生は嫌」などである。「説明の仕方」は「教科書の内容しか言わず、説明が上手ではない先生」「先生はわかっているつもりで説明しているけど、生徒に伝わっていない先生」などである。その他、「板書を写すだけでは何をやったのかわからないような雑な板書をする先生」「何が言いたいのか(内容・ポイントが)分からない板書」などの「板書の仕方」、「うるさい生徒や授業に集中していない生徒の注意ばかりする人。授業が進まなくて嫌」という「注意の仕方」などがあげられた。わかりにくい質問を投げかけるなど授業を効率よく展開しない先生や教

科書の内容をただ教授するだけの先生は嫌われるタイプと言える。

(8) その他

その他、以下のような回答があった。

- ・やるやると言って、やらないタイプの先生。
- ・気持ち悪い先生。(高1の時、生徒のことを友達と知っていると言って、気持ち悪いと思ひ、顔をみるだけで泣きそうになった)
- ・伝えることを忘れてたりする先生。
- ・生徒に悪影響を及ぼす先生。
- ・失敗した時、どうして失敗したのかの見極めができない先生。
- ・体罰がある先生。
- ・女の先生も合わない。
- ・男で香水をつけている先生。
- ・自分を考えて指導できない先生。

なお、「これまでの先生がいい先生ばかりだったので、思い浮かばない」という学生も1名いた。

まとめ

本研究は、100名の大学生に「印象に残っている先生」を自由に語ってもらった記録である。また理想とするタイプの先生、嫌いなタイプの先生についても語ってもらった。好きな先生のタイプについては、あえて問わなかった。

概ね理解・納得のできる結果が得られたが、まとめとして、7点ほど指摘しておきたい。

- ①学校移期の時期に、印象に残る教師との出会いがある。
- ②印象に残る教師の年齢が目立った傾向はなく、どの年齢層の教師もほぼ等しく印象に残る様子である。
- ③担任の教師が印象に残る割合が高く、その傾向は女子学生に多い。
- ④クラブよりも教科の先生を印象に残る教師としてあげる割合が高い。
- ⑤教職志望の学生は、「今の自分にその先生が与えている影響がある」という回答であり、教職を志望するきっかけになっているようである。
- ⑥授業が上手いといった「教授・指導」に関することよりも、めりはりのある対応をする先生、寄り添ってくれる先生といった「教師の対応」について、理想と考えているよ

うである。

- ⑦教師の意見や価値観を押し付ける先生、過度に生徒と距離を取りすぎたり近すぎたりする先生、生徒が理解できない理由で怒ったり感情的になる先生、平等に扱ってくれなかったり、生徒に関心を寄せてくれない先生、授業スタイルが生徒に合っていない先生は嫌われるタイプと言える。これらの意見から、授業場面で威厳がなく、自分たち一人ひとりときちんと向き合わず、理解してくれない教師像が浮かび上がってくる。

今回の研究では、大学生・短大生を対象に面接を行った。教師が教師をどう見ているのか、など多角的な異なる視点から印象に残る教師像を明らかにすることも今後の課題であろう。

〈付記〉本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。結果と考察の「1. 印象に残った先生像」は二宮、「2. 理想とするタイプの先生」は山本、「3. 嫌いなタイプの先生」は杉山が分担し、それぞれ執筆にあたった。しかし論文全体に対し平等に意見を出し合って執筆したので、本人担当部分を明確に抽出することはできない。

文 献

- 文部科学省 (2019) 「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策」(答申)
- NHK 「少年少女プロジェクト」世論調査 (2000年2月18日放送) [尾木直樹 (2000) 『子どもの危機をどう見るか』岩波新書 (p. 106) より引用]
- 野口隆子 (2016) 大学生の学校経験想起による教師イメージ. 教職研究, 28, 87-92.
- 豊田弘司 (1994) 回想による教師像と教師に対する印象の関係. 奈良教育大学教育研究所紀要, 30, 93-98.
- 豊田弘司 (1996) 回想された好きな教師と嫌いな教師像. 奈良教育大学教育研究所紀要, 32, 125-131.
- 内田良・上地香杜・加藤一晃・野村駿・太田知彩 (2018) 『調査報告 学校の部活動と働き方改革 教師の意識と実態から考える』岩波ブックレット No. 989.